

## 第3章 各指標・取り組みの評価

### 1. 推進目標1 健（検）診で病気の芽を発見しよう

#### (1) 指標の状況と判定

目 標 指 標		策定時	現状値	目標値（策定時）	判定
各種がん検診の受診率の向上	胃がん検診	4.0% (H24 年度)	9.0% (H29 年度)	10%	B
	子宮頸がん検診	14.1% (H24 年度)	21.8% (H29 年度)	20%	A
	乳がん検診	11.0% (H24 年度)	17.7% (H29 年度)	20%	B
	肺がん検診	12.7% (H24 年度)	11.7% (H29 年度)	20%	D
	大腸がん検診	31.7% (H24 年度)	34.2% (H29 年度)	45%	B

- ・子宮頸がん検診の受診率については、目標値を達成しています。
- ・胃がん検診、乳がん検診、大腸がん検診の受診率については、増加しているものの、目標には及ばない状況です。
- ・肺がん検診の受診率については、低下しており、目標に及ばない状況です。

#### (2) これまでの主な取り組み

- ①がん検診                      ②がん予防の推進
- ③乳幼児健康診査              ④園児の健康管理
- ⑤児童生徒の健康管理        ⑥住民健康診断
- ⑦国保特定健診・特定保健指導
- ⑧身体障がい者健康診査
- ⑨後期高齢者医療制度の健康診査



はんだピンクリボン：がん検診啓発のシンボル

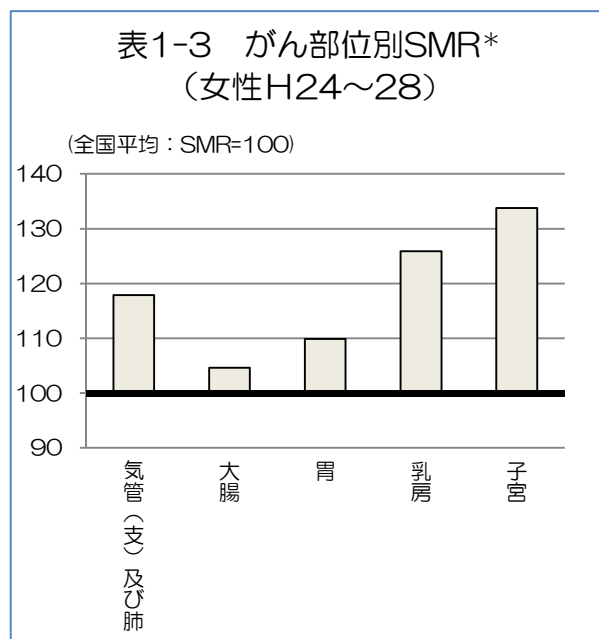
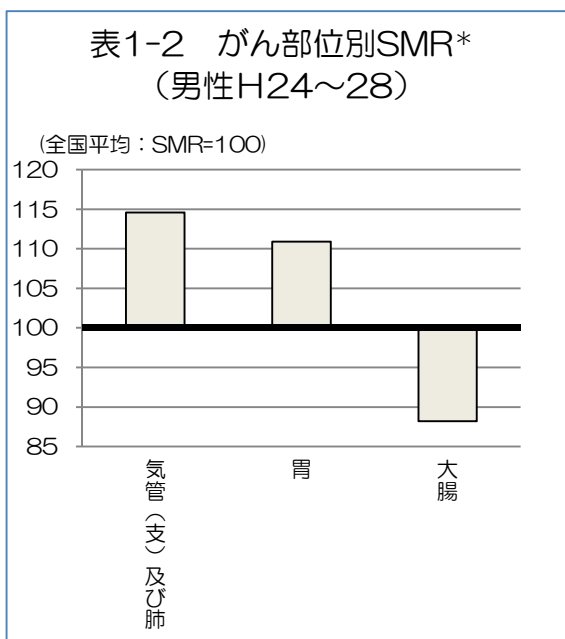
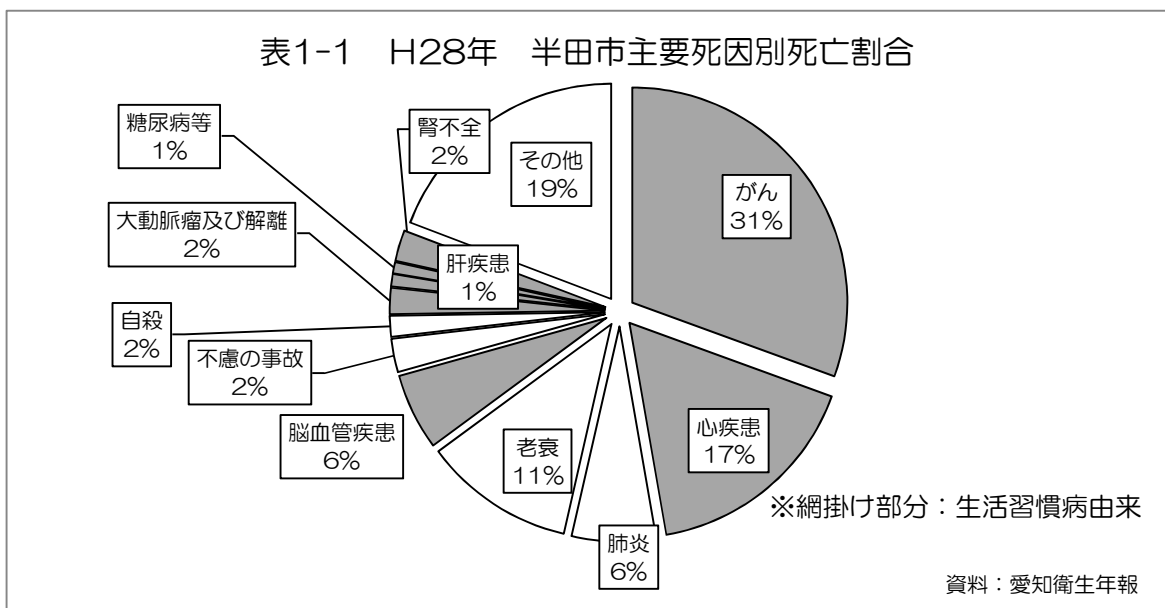
#### (3) 主な課題

- ・がん検診の受診率は上昇傾向にありますが、がんは死因の第1位であるため(表1-1)、さらなるがん検診受診率の向上および早期治療・重症化予防の推進が必要です。
- ・がん部位別標準化死亡比\*(SMR\*) (表1-2、表1-3)では、乳がん・子宮がんで亡くなる女性が高いため、女性ががん検診を受けやすい体制の整備やセルフチェックの方法、検診の重要性の普及啓発が必要です。

- 死因の約 60%は生活習慣病（がん、心疾患、脳血管疾患など）であること（表1-1）より、健診を受け、自分の健康状態を把握すること早期治療・重症化予防の重要性を普及することが必要です。

#### （4）今後の取り組みと方向性

- 定期的に健（検）診を受診するよう、普及啓発に努めます。また、早期治療・重症化予防対策を推進します。
- がん検診の受診率が今後より一層向上するよう、啓発や個別通知勧奨の実施、国保や職域のがん検診との連携や、受けやすいがん検診の体制整備をしていきます。
- 国民健康保険特定健診の未受診者対策を推進します。
- はんだ健康マイレージ事業においてインセンティブ\*を設け、健診受診を促します。



資料：H24~28年市町村別標準化死亡比(SMR)

## 2. 推進目標2 血液サラサラで若々しい血管を保とう

### (1) 指標の状況と判定

目 標 指 標		策定時	現状値	目標値(策定時)	達成度
心疾患*の人口10万 対死亡率*の減少	男性	133.7 (H23年)	143.2 (H28年)	120.0	D
	女性	156.8 (H23年)	164.5 (H28年)	145.0	D
脳血管疾患*の人口10 万対死亡率の減少	男性	77.8 (H23年)	40.9 (H28年)	73.0	A
	女性	77.6 (H23年)	65.1 (H28年)	70.5	A
腎不全*の人口10万 対死亡率の減少	男性	22.0 (H23年)	18.8 (H28年)	21.0	A
	女性	33.7 (H23年)	24.0 (H28年)	27.0	A
国保特定健診の受診率の向上		50.8% (H23年度)	55.8% (H28年度)	60%以上	B
国保特定保健指導の受診率(指 導終了率)の向上		18.8% (H23年度)	28.5% (H28年度)	30%以上	B
妊婦の喫煙率の減少		5.4% (H24年度)	2.5% (H29年度)	3.5%	A

- ・心疾患の人口10万対死亡率については、男女ともに増加しており、目標には及ばない状況です。
- ・脳血管疾患、腎不全人口10万対死亡率については、男女ともに目標値を達成しています。
- ・国保特定健診の受診率、特定保健指導の指導終了率については、年々増加していますが、目標には及ばない状況です。
- ・妊婦の喫煙率については、目標値を達成しています。

### ⑬市民ボランティアとの健康づくり推進

### (2) これまでの主な取り組み

- ①健康情報の発信
- ②国民健康保険加入者等に対する健康講座
- ③母子に対する教室 ④成人・高齢者に対する健康教育
- ⑤園児の健康管理 ⑥児童生徒の健康管理
- ⑦住民健康診断 ⑧国保特定健診・特定保健指導
- ⑨後期高齢者医療制度の健康診査 ⑩子どもの食事の相談 ⑪健康相談 ⑫訪問指導
- ⑬市民ボランティアとの健康づくり推進 ⑭市内スポーツ団体との協働
- ⑮小学生の身体づくり活動 ⑯スポーツプログラム ⑰農業を通じた食育の推進

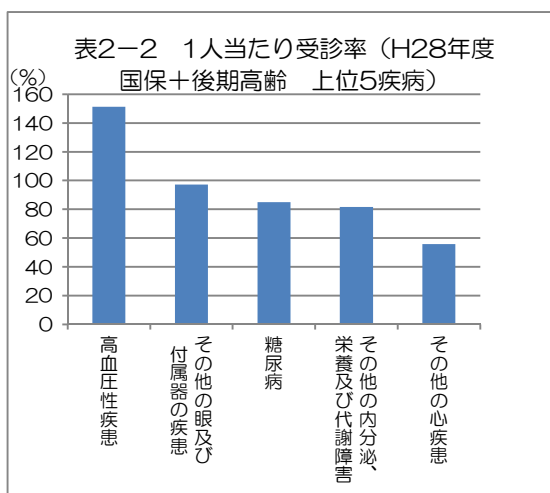
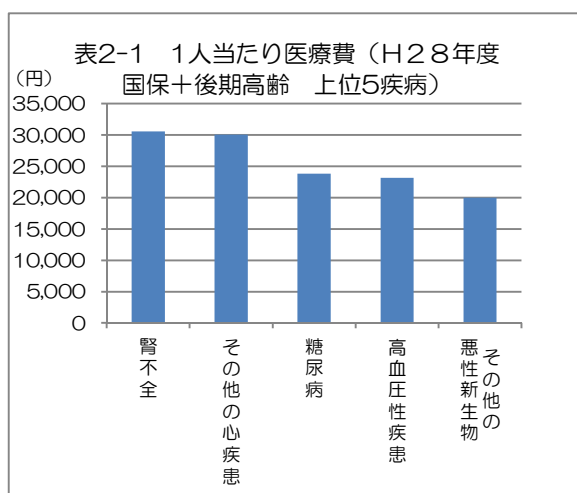


### (3) 主な課題

- 脳血管疾患、腎不全の死亡率は低下しているが、「腎不全」「高血圧性疾患」「糖尿病」の一人当たり医療費\*（表 2-1）、一人当たり受診率\*（表 2-2）は高いため、生活習慣病予防対策の推進が必要です。
- 国保特定健康診査受診率は向上しているが、40 歳代（約 25%）、50 歳代（約 35%）の受診率は低いため、若い世代への健診普及が必要です。
- 国保特定保健指導の指導終了率は向上しているが、特定健診の間診の中で生活習慣を改善するつもりはないと答える方は約 56%（H28 年度）おり、生活習慣改善意欲を高める支援が必要です。
- 半田市国保特定健診の結果、メタボリックシンドローム\*該当者が 24.3%（H28 年度）で県内ワースト 1 であり、生活習慣病予防のためにメタボリックシンドローム予防が必要です。
- 妊婦の喫煙率は低下しているが、子育て中の家庭における喫煙率は県と比較して高いこと、また、40～74 歳の喫煙率（H28 年度半田市国民健康保険特定健診問診より）は 13.2%であるが、40 代の喫煙率は約 25%と高く、受動喫煙\*防止のためにも、子育て世代への取り組みの推進が必要です。

### (4) 今後の取り組みと方向性

- 生活習慣病等の疾病に関する受診率や医療費、死亡率などの動向を引き続き調査します。
- 乳幼児健診、保育園や学校での保健だより等における情報発信により、乳幼児期、学童期、若い世代への生活習慣に関する正しい知識の普及啓発の充実を図ります。
- 第 2 期データヘルス計画\*との整合性をとり、メタボリックシンドローム予防のため、各世代層別に健康意識と運動習慣の構築を推進します。
- 国民健康保険特定健診、住民健診等の健診後における生活習慣病リスク保有者の生活習慣の改善につなげる支援を充実します。
- あらゆる世代に対し、禁煙・受動喫煙防止の推進に取り組むとともに、子育て世代への取り組みについてさらに充実します。
- 第 2 次半田市食育推進計画\*との整合性をとり、食育および食生活の改善について推進します。



資料：国保 KDB\*

### 3. 推進目標3 □から健康づくりをはじめよう

#### (1) 指標の状況と判定

目 標 指 標	策定時	現状値	目標値（策定時）	達成度
妊婦歯科健診の 受診率の向上	37.2% (H24年度)	41.3% (H28年度)	50%以上	B
1歳6か月児 の甘いおやつ と飲み物習慣 の減少	甘いおやつ 45% (H24年度)	40.4% (H28年度)	30%	B
	甘い飲み物 43% (H24年度)	41.3% (H28年度)	30%	B
むし歯のない 子どもの増加	3歳 85.5% (H24年度)	88.8% (H28年度)	90%以上	B
	5歳児 (年長児) 60.4% (H24年度)	67.4% (H28年度)	65%以上	A
	12歳児 (中1) 66.7% (H24年度)	77.0% (H28年度)	74%以上	A
1人あたりの 平均むし歯本 数の減少	5歳児 (年長児) 1.80本 (H24年度)	1.35本 (H28年度)	1.35本	A
	12歳児 (中1) 0.74本 (H24年度)	0.52本 (H28年度)	0.45本	B
歯周疾患（歯周病*）検診受 診率の増加	8.5% (H24年度)	14.8% (H28年度)	15%	B
平均現在歯数 の増加（永久歯 は28本、親知 らずを含め 32本）	40歳 28.1本 (H18~23年度平均)	28.1本 (H28年度)	28.3本	C
	50歳 27.1本 (H18~23年度平均)	27.9本 (H28年度)	28.1本	B
	60歳 25.7本 (H18~23年度平均)	26.4本 (H28年度)	27.1本	B
	70歳 22.4本 (H18~23年度平均)	23本 (H28年度)	25.7本	B
7022*達成者の増加	74.7% (H24年度)	70.7% (H28年度)	88%	D
かかりつけ歯科医のない人 の減少	25% (H24年度)	28.4% (H28年度)	15%	D

- ・妊婦歯科健診の受診率は向上しているが、目標には及ばない状況です。
- ・1歳6か月児の甘いおやつと飲み物習慣は、減少傾向にありますが、目標には及ばない状況です。
- ・むし歯のない子どもは5歳児、12歳児では目標を達成していますが、3歳児では目標に

は及ばない状況です。

- 1人あたりの平均むし歯本数の減少しており、12歳児では目標を達成しています。
- 歯周病検診の受診率は向上していますが、目標には及ばない状況です。
- 平均現在歯数については50歳以上では向上していますが、40歳代では変化がありません。
- 7022達成者は、策定時よりも減少しています。
- かかりつけ歯科医のない人は、策定時よりも増加しています。

## (2) これまでの主な取り組み

- ①歯と口の健康週間 ②妊婦歯科健診
- ③1歳6か月児・2歳児歯科健診
- ④園児に対する歯科健診 ⑤歯周病検診
- ⑥わいわいマタニティ（妊婦教室）歯っぴー編
- ⑦こんにちは赤ちゃん訪問にてむし歯予防セットの配布
- ⑧カミカミ教室 ⑨保育園児及び保護者に対する講話
- ⑩幼稚園児及び小中学生に対する歯科指導 ⑪保護者の歯みがき指導
- ⑫歯科健康教育 ⑬子どもの歯の相談 ⑭個別歯科相談 ⑮8020表彰

①歯と口の健康週間の様子



## (3) 主な課題

- 妊婦歯科健診受診者のうち約40%の妊婦にむし歯があり、約60%の妊婦に歯肉からの出血があります。妊娠中は歯周病やむし歯になりやすいため、早めの処置が必要となります。妊婦歯科健診の必要性を啓発し、受診率を向上させる必要があります。
- かかりつけ歯科医がある人を増やし、むし歯・喪失歯を減らすため、乳幼児期や学童期、若い世代への歯と口の健康及び手入れの方法の正しい知識を普及することが必要です。
- 8020\*を目指すために、若い世代からの歯周病検診の受診が必要です。

## (4) 今後の取り組みと方向性

- 妊婦歯科健診の必要性を母子健康手帳交付時等で普及啓発します。
- カミカミ教室などの実施により、乳幼児期からの歯と口の健康及び手入れの方法の正しい知識の普及啓発をすすめます。
- 市内各幼稚園・小中学校にて歯科医師による巡回指導を今後も継続していき、むし歯予防を推進します。
- 歯と口の健康週間、保護者の歯みがき指導において、若い世代に向けてかかりつけ歯科医の推進をします。
- 歯周病検診の対象年齢を平成30年度より30歳・35歳まで拡大し、歯周病予防を推進します。

## 4. 推進目標4 ゆっくり休息、楽しくリフレッシュ

### (1) 指標の状況と判定

目 標 指 標		策定時	現状値	目標値（策定時）	達成度
睡眠による休養が不十分な人の割合の減少	全体	30.0% (H24年度)	28.1% (H29年度)	25.0%	B
	40歳代	38.7% (H24年度)	36.4% (H29年度)	30.0%	B
ストレスチェック*時にストレスが「ある」「だいぶある」と回答した人の割合の減少		29.7% (H23・24年度)	35.2% (H28・29年度)	20.0%以下	D
唾液でのストレスチェックの結果が「ある」「だいぶある」人の割合の減少		54.9% (H23・24年度)	41.5% (H28・29年度)	45.0%以下	A

- ・睡眠による休養が不十分な人は減少していますが、目標には及ばない状況です。
- ・ストレスチェックの問診については、「ある」「だいぶある」人の割合は、策定時よりも増加しています。
- ・唾液によるストレスチェックの結果については、「ある」「だいぶある」人の割合は目標を達成しています。

### (2) これまでの主な取り組み

- ①こころの保健室
- ②青年期の自殺予防対策のための心理相談
- ③心理相談員の個別相談
- ④女性のための相談
- ⑤NP プログラム子育て講座
- ⑥こころの健康講座
- ⑦ゲートキーパー養成講座
- ⑧ストレスチェック
- ⑨半田市自殺対策連絡協議会
- ⑩アルコールに関する知識の普及啓発
- ⑪レッツトライ1・2・3
- ⑫おやっこ・ひよっこ
- ⑬小学生の身体づくり活動
- ⑭スポーツプログラム
- ⑮市内スポーツ団体との協働
- ⑯農業を通じた食育の推進

⑥こころの健康講座の様子



### (3) 主な課題

- ストレスに対する対処法をもっているかどうか、またその対処法として多いものは何なのかなどの実態調査が必要です。
- 唾液によるストレスチェック測定の結果と問診でのストレスの自覚との比較（表3）において、若い世代において測定ではストレス度が低くでいても問診ではストレスを感じている人の割合が多いので、自分らしいストレスへの対処法をもつことの普及啓発が必要です。
- 睡眠を十分にとっていると感じられることは、ストレスの軽減にもつながります。乳幼児期から十分な睡眠をとる生活リズムの確立や、若い世代への睡眠への対策が必要です。

### (4) 今後の取り組みと方向性

- ストレスに対する対処法をもっているかどうか、またその対処法として多いものは何なのかなどの実態を、住民健康診断や健康相談時においてアンケートをとり、調査します。また、その結果を踏まえ、ストレス軽減のための自分らしい対処法を身につけてもらうため、こころの健康講座を実施します。
- 若い世代のストレス原因の一つでもある育児ストレスの解消にむけて、NPプログラム\*子育て講座などにより、ゆったりとした気持ちで子育てできる支援を推進します。
- 「だれでも」、「いつでも」、「どこでも」、「いつまでも」気軽にスポーツが楽しむことができる「生涯スポーツ社会」の実現をめざし、ニュースポーツの普及に取り組みます。
- 乳幼児期から睡眠の大切と生活リズムの確立について乳幼児健診での保健師による保健指導などによる支援の充実を図ります。
- 半田市自殺対策計画\*との整合性をとり、こころの健康について推進します。

